

「改訂版：基本的な文字化の原則（Basic Transcription System for Japanese: BTSJ）2007年3月31日版」について

宇佐美まゆみ・木林理恵

0. はじめに

本稿では、まず、宇佐美(2006)「改訂版：改訂版：基本的な文字化の原則（Basic Transcription System for Japanese: BTSJ）」2007年3月31日版(以下、BTSJ)について、2005年2月25日版よりさらに改訂された部分について述べる。それから、今回は改訂に至らず検討事項としている項目について述べ、最後に、最新の「改訂版：改訂版：基本的な文字化の原則（Basic Transcription System for Japanese: BTSJ）」の公開方法について紹介する。

1. 2007年3月31日版における改訂部分について

2005年2月25日版よりさらに改訂された部分は、以下の通りである。

1-1. 「4. 発話文終了に関する記号」について

例1のように、第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合は、「【】」をつける。結果的に終了した第1話者の発話文の終わりには、句点「。」の前に【】をつけ、第2話者の発話文の冒頭には】】をつける。

- 例1 →1 A それは、高校、でもあの…>{<}【。】
→2-1 B]】<現代国語っていうと、>{>}あの、国語の…,,
3 A はい。
2-2 B その、あっち、くだけですか?>{<}。

この記号に関する説明は、2005年2月25日版までは、「6.2.2 音声的情報」における「発話の重複」の項にあった。しかしこれは、発話文の終わりを示す記号であるため、「4.1 発話文終了の記号」の項で説明するよう移動した。

1-2. 「6.2.3 周辺言語情報」について

ここでは、以下の2つについて、改訂をした。

①「笑い」の例文の追加

BTSJでは、聞こえたものとなるべくそのまま表記している。ゆえに、笑いも、笑いが起こった場所に表記する。特に、笑いながら発話をしている場合は、発話の終わりではなく、笑い始めた箇所に<笑いながら>を書くことが望ましい。そこで、以下のような例を追加した。

- 例2 A 資源効率的に使おうと思えば、<笑いながら>それしかないわけですから。

②文脈情報の説明と例の追加

文脈情報の説明は、「その発話がなされた状況ができるだけ分かりやすくなるように、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどを、研究者が分析の際のメモとして活用できるよう記しておく。」と書かれている。音声的な特徴としては、以下の例3のように、会話の雰囲気を表すものも入る。そこで、例を追加した。

- 例3 A こたつから根生やしてんじやないか<笑いながら>って父親と弟は

一切動かない。[不満を打ち明ける感じ]

また、例4のように、文化化資料を読むだけではわかりにくい発話について、〔〕内に説明を記す場合もあることを記した。

例4 B 制度わかる? [留学先の日本語クラスのレベル分けを知っているかと尋ねている]

1-3. 「8.2 書式の設定」について

各トランスクリプトにおいて、シートのヘッダーに、会話の情報を書く。従来から、ヘッダーやフッターを利用し、会話の長さや文化化作業を行った人物などを記録するようにしていた。さらに、どのような目的によって収集された会話かということや、話者の記号の意味を記すことを推奨することとした。

社会人初対面女性ベース(1-72) BF02-YF01(3'11"-5'17":続) 会話番号: 6				
BF: 日本人女性ベース YF: 年下の女性話者 1会話における話者の数: 2人				
上の余白: 2cm				
左: 1.5 cm	右: 1.5 cm	ライン番 号	発話文 番号	発話文 終了
		90	88	*
		BR02		<どうも、ほーー、>少いや、わたし自分が女の子 がれりって思ってたから、女の子女の子つど(あ ー)思ってたんですけども、(ええ、ええ)男の子 で、ええ。
		91	89	*
		BR02		ただ、まー主人とか、(ええ、ええ)うちの父とかは 喜んでましたけどね。
		92	90	*
		YF01		あー、男の子を…。

下の余白: 2cm

1次: 外大花子(030915)
2次: 府中太郎(030925)
3次: 菊日町子(031001)

図1. 全体の書式

また、情報量が増えたことにより、シートの余白は、原則として、上は3センチ、下は2センチ、左右は2センチに設定する。

2. 検討中の事項について

現在、検討中の事項は2つある。

2-1.2つの意味を持つ読点の記号

BTSJにおいて、読点の記号は、以下のように異なる2つの意味を持っている。

- ①[全角] 1発話文および1ライン中で、日本語表記の慣例通りに読点をつける。
- ②発話と発話のあいだに短い間がある場合につける。

「慣習」と「短い間」は、違う記号で記すほうが合理的であろう。ただし、今まででは「慣習」と「短い間」を分けずに記述していったため、これらを分けて文化化資料を作る際、実際の手順が煩雑になりすぎないか等、検討を進めている。

2-2. 音声的特徴をどこまで記すか

もうひとつは、音声的特徴をどこまで記すかという点である。例えば、現在は、卓立が起きた箇所は以下のように周辺言語情報で記している。

1A で、一番安かったのがグリーンカレーだったので、(笑い)頼んでみたら結構辛かった。
['結構'を強調した]

表記しておくべき卓立が多く現れた場合は、発話内容で示すほうが読みやすいと考えられる。そのためには、卓立をどのように示すことが適切か、検討中である。

3. 改訂版 BTSJ の最新版の公開方法について

2で検討事項を述べたように、今後も改訂は続くと考えられる。そこで、最新の日付を持って最新版とする。つまりタイトルは、「改訂版：基本的な文化化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) 2007年3月31日版」というように、常に日付を記しておく。

また、基本的に、最新版の公開はウェブで行う。機会があれば印刷物とすることも可能であるが、改訂箇所がわざわざでも、早く改良して使ったほうがいいことがある。更新や周知の速さから、ウェブでの公開が適切であろう。URLは以下の通りである。

<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj.htm>

以上。